

官報

昭和二十年十二月十五日

官報號外 暈和二十年十二月十五日

昭和二十年十二月十四日(金曜日)

午後二時九分開議

議事日程

第十三號

昭和二十年十二月十四日

午後一時開議

質問

一 交通運輸並燃料充足ニ關スル

質問(庄司一郎君提出)

二 教職員待遇改善ニ關スル質

問(木村寅太郎君提出)

三 引揚民援護ニ關スル質問(伊

禮肇君提出)

第一 入管者職業保障法及國民勞

務手帳法廢止法律案(政府提出)

貴族院送付)第一讀會ノ續

(委員長報告)

第二 昭和十二年法律第七十八號

廢止法律案(紀元一千六百年記

念日本萬國博覽會抽籤券附回數

入場券發行ニ關スル法律廢止ノ

件(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 汽車法廢止法律案(政府提

出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 裁判所構成法戰時特例廢止

法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第五 戰時民事特別法廢止法律

案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第六 戰時刑事特別法廢止法律

案(政府提出、貴族院送付)

第七 特別報告第七號(「バン」貢

獎勵ニ關スル請願(委員長報告)

第八 特別報告第八號(船塗柏增

產ニ關スル請願(委員長報告)

第九 特別報告第九號(戰災復興都

市計畫促進ニ關スル請願

國庫、金津間鐵道復活ニ關スル

請願(委員長報告)

第十 特別報告第一〇號(唐良川

上流ニ「ダム」築設ノ請願(委員長報告)

田川改修ニ關スル請願(委員長報告)

第十一 特別報告第一一號(七北

顧(委員長報告)

第十二 特別報告第二二號(市制

改正ニ關スル請願(委員長報告)

第十三 特別報告第二三號(鹿屋

顧(委員長報告)

第十四 特別報告第二四號(鹿屋

顧(委員長報告)

第十五 特別報告第一五號(鹿屋

市ニ女子蠶絲專門學校設置ノ請

願(委員長報告)

第十六 特別報告第一六號(鹿屋

市ニ農科大學設立ノ請願(委員長報告)

第十七 特別報告第一七號(鹿屋

市ニ工藝專門學校設置ノ請願(委員長報告)

サセマス

〔書記官朗讀〕

一、本日政府ヨリ受領シタル答辯書左

ノ如シ

第十八 特別報告第一八號 大

白川、會津西方間鐵道速成ノ請

願(委員長報告)

第十九 特別報告第一九號 古江、

隼人間鐵道速成ノ請願(委員長報告)

右成規ニ據リ提出候也

昭和二十年十一月二十九日

提出者 庄司一郎

交通運輸並燃料充足ニ關スル質

主意書

庄司一郎君提出、交通運輸並燃料

足ニ關スル質問ニ對スル答辯書

木村寅太郎君提出、教職員待遇改善

ニ關スル質問ニ對スル答辯書

伊禮肇君提出、引揚民援護ニ關スル

質問ニ對スル答辯書

庄司一郎君提出、交通運輸並燃料

足ニ關スル質問ニ對スル答辯書

木村寅太郎君提出、鐵道復興都

市計畫促進ニ關スル質

問主意書

庄司一郎君提出、鐵道復興都

三、運輸省ハ汽車機関車ノ熱源燃料
トシテ五千五百熱量以上保有ノ石
炭ニノミ依存セスシテ四千五百熱
量以上ノ優秀亞炭ヲ三、四十バ
セント石炭ニ混用スル新方途ヲ採
用スルノ意圖無キヤ

昭和二十一年十二月十四日
内閣總理大臣 男爵幣原臺灣郎
衆議院議長島田俊雄殿
並燃料充足ニ關スル質問ニ對シ別紙
答辯書差進候

〔別紙〕
衆議院議員庄司一郎君提出交通運
輸並燃料充足ニ關スル質問ニ對ス
ル答辯書

一、政府ハ刻下石炭事情ノ極度ノ惡
化ニ對處シ、之ガ生産ノ確保ト配
給ノ圓滑ニ付萬全ノ努力ヲ傾注シ
ツツアル處、之ガ打開策トシテ石
炭ノ生産配給等ニ關スル一切ノ統
制ヲ廢止スルハ適當ナラズト思
料ス

即チ石炭ノ供給確保ハ、國民衣食
住物資並ニ輸出物資ノ生産ヲ中心
トスル、我國產業ノ復興、民生
安定ノ大前提ニシテ、無統制ナル
取引ニ依リ石炭ノ需給ニ混亂ヲ來
シ、或ハ其ノ價格ノ安定ヲ失ハシ

カ、直ニ全產業ト民生ノ破綻ヲ招
來スルノ處アルコト主食糧ニ於ケ
ル場合ト異ル處ナシ
仍テ政府ハ、石炭ニ付テハ其ノ基
礎物資タル本質ト需給ニ逼迫セル
實情ニ鑑ミ、生産、配給、價格等
ニ關シ必要ナル統制ヲ尙持續セン
トス、但シ統制ノ運營ニ付テハナ
ルベク官治的統制ヲ避け、業者團
體ノ自主的活動ヲ促進スルコトト
シ、又石炭販賣價格ニ付テハ、出
炭ノ激減ト山元生産費ノ著シキ昂
騰ニ鑑ミ、相當ノ引上ヲ近ク實施
スル豫定ニシテ、勞務賃銀ニ付テ
ハ坑内十二圓平均、坑外六圓八十
錢平均ニ十一月一日以降引上ヲ實
施セリ

且最近ノ石炭不足ニ伴ヒ益々其ノ重要性加重セラレタルヲ以テ、政
府シテハ極力之ガ増産ニ努力シ
ツ、アリ、而シテ取扱ノ價格政策
トシテハ、從來ヨリ中央ニ於テ御
一的ニ統制スルコトナク各府縣ニ
於テ實情ニ應ジ夫々實施セシメ居
リ、更ニ統制ノ弊ヲ外シ協定價格
乃至自由價格ト爲スコトニ付目下
研究中ナリ、又生産資材、副資材
ノ供給ニ付テモ石炭ニ准ジ措置ス
ルコト致シ居リ、勞務者用食糧
ノ特配ニ付テモ同様措置致度シ
尙亞炭ノ年產目標トシテハ、本年
度上半期實績約八十萬噸ナル實情
ニ鑑ミ、一應本年度三百五十萬噸、
昭和二十一年度四百五十萬噸トシ
アリ

ノ大部分ハ榮養失調トナリ文字通リ
餓死線上ニ彷徨シツツアリ今ヤ日本
再建ノ爲之ヲ教育ニ俟シコト絶大ナ
ル秋ニ當リ此ノ儘ニシテ推移センカ
我國國民教育ノ前途ハ實ニ暗澹
ルモノニシテ深憂ニ堪ヘザルモノ
アリ

政府ハ速ニ教職員ノ待遇改善ヲ斷行
シテ教職員ヲ擁護スルコト極メテ緊
要ナリト信ズルモ差當年年末危機突
破ノ爲月俸五ヶ月分ノ臨時特別賞與
ヲ全額國庫負擔ニ於テ支給サレム
トヲ要望スルモノナリ政府ノ所信如
何
右及質問候也

昭和二十年十二月十四日

内閣總理大臣 男爵常原喜重郎

衆議院議長島田俊雄殿

衆議院議員木村寅太郎君提出教職員
待遇改善ニ關スル質問ニ對シ別紙答
辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員木村寅太郎君提出教職員
員待遇改善ニ關スル質問ニ對スル
答辯書

教職員待遇改善ニ付テハ政府モ同感
ニシテ速カニ適當ナル措置ヲ講ズベ
ク銳意研究中ナリ
右及答辯候也

昭和二十年十二月十四日

文部大臣 前田 多門

引揚民援護ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

昭和二十年十二月十一日

提出者 伊禮 肇

引揚民援護ニ關スル質問主意書

一、約五萬人ニ達スル沖繩縣引揚民

ニ對スル政府竝ニ九州ノ受入各縣
當局ノ同情アル援護ニ付テハ沢
額ノ生活費ノ補助ヲ受ケ漸ク生
ノ安定ヲ得ツアリタルモ現今沖
繩ガ焦土化シ且交通斷絶シ毎月
ノ生活費ノ送金杜絶エタル結果從
來通リノ一人一日金五拾錢(二八
ニ付一日八拾錢、人數增加ニ從ヒ
遞減)ノ政府補助金ヲ以テシテアハ現地軍當
局ノ唐突ナル引揚命令ト長期ニハ
ル滯留ヲ豫期セザリシ爲防寒用具、
衣類等ノ準備不充分ニシテ弊
害ニ向ヒ不安ニ堪ヘズ
仍テ政府ニ於テハ是等沖繩引揚民
ノ爲生活援護費ノ増額竝ニ防寒用
夜具、衣料ノ支給ヲ速ニ實施セラ
レムコトヲ要望ス
政府ノ所信如何

二、海外ヨリノ引揚民援護ニ關シ
ハ政府ニ於テ相當考慮セラレツ
アルモ尙不徹底ノ點多ク殊ニ熱帶
國シタル邦人數千人ハ全ク着ノミ
着ノママニシテ且ツ殆ド全部ガ
養失調ニ陥リ其半數ハ「マラリヤ」
患者ナル爲折角母國ノ土地ヲ踏ミ
ナガラ日々數十名ノ死亡者ヲ出シ
ツツアル現狀ナリ

殊ニ一般引揚民ガ各々親類知已ノ
温キ手ニ迎ヘラレテ郷里ニ安住ノ
地ヲ求メ得ルニ反シ歸ル可キ母國
ヲ失ヘル沖繩縣出身引揚民七千餘
人(全引揚民ノ約六割)ハ福岡、鹿

兒島（加治木ハ戰災ト暴風雨ノ爲

住所食糧ニ最モ困窮セル所ナリ）

浦賀ヘ集團シ防寒用布團、衣料、

食糧、醫療等ノ缺乏ノ爲困窮其ノ

極ニ達シ慘状見ルニ忍ビザルモノ

アリ

仍テ是等海外引揚民ニ對スル徹底

的援護對策ニ關シ左記三項ニ付政

府ノ所信ヲ質ス所以ナリ

（一）向寒ニ節海外引揚民ノ爲最モ

急ヲ要スル夜具、衣料等ハ引揚民

ノ滞留セル府縣ノ負擔トル結果

一時ニ數千人ノ引揚民ヲ押付グラ

ル當該府縣ハ戰災民用ノ夜

具、衣料ヲ豫メ準備セラレムコ

トヲ要望ス

政府ノ所見如何

（二）前述ノ通り南方引揚民ノ殆ド

全部ガ榮養失調其約半數ガマラリ

ア患者ナリ

仍テ政府ハ速ニ醫療施設ニ關シ特

別ノ配慮ヲ講ゼラレムコトヲ要望ス

政府ノ所見如何

（三）是等南方引揚民ハ軍票又ハ臺

鐵銀行等ノ預金證書ノミヲ持參

現金ヲ所持セザル結果日々ノ生活

ニ困リ居る狀態ナリ

政府ハ右軍票又ハ預金ヲ見返リト

シテ一定限度ノ金額ヲ融通シ引揚

民ノ生活ヲ安定セシメラレムコト

ヲ要望ス

政府ノ所見如何

昭和二十年十二月十四日

内閣總理大臣

男爵幣原喜重郎

衆議院議長島田俊雄殿

〔別紙〕

衆議院議員伊禮肇君提出引揚民援護

ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進

候

〔別紙〕

衆議院議員伊禮肇君提出引揚民援護

ニ關スル質問ニ對スル答辯書

致シマシタ、仍テ日程ヨリ之ヲ省キ

戰爭死亡傷害保險法及戰時特殊損害

保険法廢止等ニ關スル法律案（政府提出

マス

○長野高一君 議事日程變更ノ緊急動

議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際日程第

一乃至第八ト共ニ同一委員ニ付託セラ

レタル政府提出、防空法廢止法律案、大

日本航空株式會社法廢止法律案、石油

業法外十三法律廢止法律案、國家總動

員法及戰時緊急措置法廢止法律案、戰

争死傷害保險法及戰時特殊損害保險

法廢止等ニ關スル法律案ノ十三案ヲ一

括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ其

ノ審議ヲ進メラレントヲ望ミマス

○議長（島田俊雄君）長野君ノ動議ニ

令ニ關スル件（承諾ヲ求ムル件）貴

族院送付）委員

〔在中西 敏憲君 舟橋松田竹千代君

○議長（島田俊雄君）是ヨリ會議ヲ開

キマス、議員今井新造君ヨリ辭表ガ提

出サレテ居リマス、之ニ付キ御詔諭致

シタイト思ヒマス、先ツ其ノ辭表ヲ朗

讀致サセマス

〔書記官朗讀〕

○議長（島田俊雄君）是ヨリ會議ヲ開

キマス、議員今井新造君ヨリ辭表ガ提

出サレテ居リマス、之ニ付キ御詔諭致

シタイト思ヒマス、先ツ其ノ辭表ヲ朗

讀致サセマス

〔書記官朗讀〕

○議長（島田俊雄君）採決致シマス、

私儀

感ズル所有之議員ノ職ヲ辭任致度候

間御體許相成度御願及候

昭和二十年十二月十二日

○議長（島田俊雄君）採決致シマス、

私儀

感ズル所有之議員ノ職ヲ辭任致度候

間御體許相成度御願及候

第一入營者職業保障法及國民勞

務手帳法廢止法律案（政府提出

貴族院送付）

第一讀會ノ讀（委員長報告）

國家總動員法及戰時緊急措置法廢止法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ讀(委員長報告)

戰爭死亡傷害保險法及戰時特殊損害保險法廢止等ニ關スル法律案政

府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ讀(委員長報告)

入營者職業保障法及國民勞務手帳法廢止法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議

送付)

裁判所構成法戰時特別廢止法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議

送付)

防空法廢止法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議

送付)

戰爭死亡傷害保險法及戰時特殊損害保險法廢止等ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議

送付)

決致候此段及報告候也

昭和二十年十二月十三日 委員長 小柳 牧衛

衆議院議長島田俊雄殿

報告書

一戰時刑事特別法廢止法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議

送付)

昭和二十年十二月十三日 委員長 小柳 牧衛

衆議院議長島田俊雄殿

報告書

一大日本航空株式會社法廢止法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議

送付)

昭和二十年十二月十四日 委員長 小柳 牧衛

衆議院議長島田俊雄殿

報告書

一大日本石油業法外十三法律廢止法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議

送付)

昭和二十年十二月十四日 委員長 小柳 牧衛

衆議院議長島田俊雄殿

報告書

次ニ文部當局ニ對シマシテ、教育關係ノ事項ハ法律ヲ以テ規定スルコトガ

三件ハ、何レモ現行ノ法律ヲ廢止セントスルモノデアリマシテ、是等ハ終戦ニ伴ヒ廢止ノ必要アルモノ、或ハ其ノ制定當時ト國内情勢が著シク異ナリ其ノ存續ヲ適當トセザルモノ、又ハ聯合國最高司令官ノ要求ニ基キ廢止セントスルモノデアリマシテ、本委員會ニ於

タルモニテ、政府ヨリ其ノ提案ノ理由ヲ詳細ニ聽取シマシテ、現行法適用ノ状況、其ノ廢止後ノ影響及び經過的措置ヲ初メト致シマシテ、種々ノ觀點

ヨリ極メテ熱心ナル質疑應答ヲ交セラ

タノデアリマスガ、其ノ詳細ハ速記錄付テ御覽ヲ戴クコトト致シマシテ、

茲ニ其ノノ、三主ナルモノヲ紹介致シ

アリマス

次ニ司法當局ニ對シテ「ボツダム宣

言受諾後ハ司法權ニ於テモ、戰時日本

ノ司法權ヨリ、平和的文化的日本ノ司

法權ノ轉換シタノデアルカラ、其ノ運

用ニ付テモ大ナル變換ヲ必要トセズヤ

トノ質問ニ對シマシテ、司法當局ハ、

民主主義ハ個人ノ權利ヲ尊重スルコト

ヲ基盤トスルカラ、此ノ爲ニハ司法權

ノ權威ヲ高ムルト共ニ、司法ノ行政化

生活困難ニ陥ル者ニ對スル救濟方法如何トノ質問ニ對シマシテ、目下新設フ

圖ツテ居ル社會保險ノ万ヘ恩給受領者事ガ厚生省ニ移ツタノデ、此處ニ出来ル

ルダケノコトヲ致シタトイト答辭アリ

リマシタ、尙ホ恩給受領者ガ社會保險トノ方へ移管サレテ、恩給ガ社會保險ト

名稱ガ變ツタト云フノデハ、果シテ聯

合國司令部ノ諒解ヲ得ラル、ヤトノ間

ヒニ對シマシテ、社會保險ト云フノヘ既存ノ厚生年金ニ通ツタモノニアリマ

シテ、日下社會保險審議會デ審査中デアリマスカラ、具體的ノコトニ付テハ今日申上ゲ兼ネルトノコトデアリマ

シタ

〔極力避ケナケレバナラナイ、即チ司法官ノ地位及ビ素質ノ向上ヲ圖ルト共ニ、檢事局ノ勢力ガ裁判所ヲ壓倒スル傾向ヲ阻止シマシテ、裁判所中心ニ導クコトヲ必要ト考ヘル、是ガ爲ニハ檢事局ヲ裁判所ヨリ引離シ、構成上モ、勤務上モ、判事ト檢事トハ全然分離シ、且ツ判事ノ地位ヲ向上セシムルノ要アリト認ムルトノ答辯ガアツタノデアリマス、尙ホ行政警察ト司法警察トノ分離ノ必要ナキヤトノ間に對シマンテ、分離ノ必要ヲ認メ、司法警察ハ檢事ノ下ニ置ク方針ヲ以テ、目下計畫ヲ進メツ、アルトノ答辯ガアツタノデアリマス

斯クテ質疑ヲ打切りマシテ討論ニ入り、松本治一郎君、藤井伊右衛門君ヨリ原案賛成意見ノ開陳ガアリ、採決ノ結果、浦場一致原案通り可決致シマシタ、以上報告致シマス（拍手）

○議長（島田俊雄君） 十三案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」と呼ブ者アリ〕

○議長（島田俊雄君） 御異議ナシト認メマス、仍テ十三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長（島田俊雄君） 長野君ノ動議ニ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決セラレントヲ望ミマス

○議長（島田俊雄君） 長野君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」と呼ブ者アリ〕

○議長（島田俊雄君） 御異議ナシト認メマス、仍テ直チ二十三案ノ第二讀會

入管者職業保障法及國民義務手帳法
廃止法律案第二讀會確定議）

昭和十二年法律第78号廢止法律
案（紀元二千六百年記念日本萬國博
覽會抽獎券附回數入場券發行三關ス
ル法律廢止ノ件第二讀會（確定議）
映畫法廢止法律案第二讀會（確定議）
裁判所構成法戰時特例廢止法律案第
二讀會（確定議）

○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」と呼ブ者アリ」

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議
決致候此段及報告候也

案ニ付テ重要ナル注目スベキ點ハ、政
府ハ且下國内ニ於ケル各種ノ増產ノ方
策ヲ講ズルト共ニ、聯合軍ノ司令部ニ
對シ、鹽ノ輸入ニ付キ懲願中デアルト
云フコトデアリマス、第二ハ鹽ノ如キ
國民ノ生命ニ直結致シテ居ル必需物資
ニ付ニハ、本也云々各風、一部

金設置二關スル法律案、國民府等組合
法中改正法律案、右四案ヲ一括シテ第
讀會ノ續々開キマス、委員長ノ報告書
ヲ求メマス——委員長崎山嗣朝君

一貿易資金設備ニ關スル法律案
(政府提出)

ノ下ニ置ク方針ヲ以テ、目下計畫ヲ進
メツ、アルトノ答辯ガアツタノデアリ
マス

關スル法律案第二讀賣確定議) 鐵道敷設法戰時特例廢止法律案第二
讀會(確定議)

鹽專賣法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
昭和二十年法律第十八號中改正法

リ、松本治一郎君、藤井伊右衛門君ヨリ原案賛成意見ノ開陳ガアリ、採決ノ結果、滿場一致原案通り可決致シマシタ、以上報告致シマス(拍手)

○議長（島田俊雄君）十三案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」と呼ブ者アリ〕
○議長（島田俊雄君）御異議ナシト認
マス、仍テ十三案ノ第二讀會ヲ開ク
ニ決シマシタ

國家總動員法及戰時緊急措置法廢止
法律案第二讀會(確定議)
戰爭死亡傷害保險法及戰時特殊損害
保險法廢止等二關入ル法律案第二讀
會(確定議)

○長野高一君 直チニ十三案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決セラレントヲ望ミ

議長（島田俊矩君）別ニ御發議モア
マセヌ、第三讀會ヲ省略シテ十三案
モ委員長報告通り可決確定致シマシ

○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議二
御異議アリマセヌカ
「異議ナシ」平賀君、アリ

長野高一君 議事日程變更ノ緊急動
議提出致シマス、即チ此ノ際政府提

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
マムバ、乃チ直ナ二十三案ノ第二審議

長野高一君 議事日程變更ノ緊急動
ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提
出、隸專憲法中改正法律案、昭和二十
九年十二月三十日付
法律第十八號中改正法律案、貿易資
本支票ニ關スレ去半變更ノ事に付

開キ議案全部ヲ議題ト致シマス
入管者職業保障法及國民勞務手帳法
廢止法律案第二讀會(確定議)

長野高一君 議事日程變更ノ緊急動
ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提
ハ、鹽專賣法中改正法律案、昭和二十
法律第十八號中改正法律案、貿易資
設置ニ關スル法律案及び國民財蓄組
法中改正法律案ノ四案ヲ一括議題ト
シ、委員長ノ報告ヲ求メ其ノ審議ヲ
メラレンコトヲ望ミマス

官報號外 昭和二十年十二月十五日

衆議院論事速記錄第十四號

保障法及國民勞務手帳法廢止法律案外
第一讀會ノ續

二件 第二讀會(確定議) 廣專賣法中

歐正法

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議
決致候此段及報告候也
昭和二十年十二月十四日
（政府提出）
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議
決致候此段及報告候也
昭和二十年十二月十四日
委員長 島田俊雄殿
衆議院議長島田俊雄殿
報告書
一國民財務組合法中改正法律案
（政府提出、貴族院送付）
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議
決致候此段及報告候也
昭和二十年十二月十四日
委員長 島田俊雄殿
衆議院議長島田俊雄殿
〔崎山嗣朝君登壇〕
○崎山嗣朝君 只今議題ニナリマシタ
廟專賣法中改正法律案外三件ノ委員會
ノ經過並ニ結果ノ御報告ヲ致シマス
本委員會ハ十二月、十三日、十四日
ノ三日間ニ亘ツテ開會致シマシタ、委員諸
員長ニハ私、理事ニハ田村、西川、小
野ノ諸君ガ當選致サレマシタ、委員諸
君ト政府トノ間ニ熱心ナル質疑應答ガ
行ハレマシタ、即チ最近ニ於ケル鹽ノ
生産量ニ其ノ需要供給ノ狀況、輸入ノ
販賣價格、國內自給體制ノ確立ト云
フヤウナ問題ガ中心ニナフタノアリ
マス、殊ニ此ノ鹽ノ專賣法中改正法律
案ニ付テ重要ナル注目すべき點ハ、政
府ハ自下國內ニ於ケル各種ノ增產ノ方
策ヲ講ズルト共ニ、聯合軍ノ司令部ニ
對シ、鹽ノ輸入ニ付キ懸念申ダアルト
云フコトデアリマス、第二ハ鹽ノ如キ
國民ノ生命ニ直結致シテ居ル必需物資
ニ付テハ、外地依存ノ弊風ヲ一擣シテ
賈ヒタイ、斯ウ云フ點デアリマス、是
ガ爲ニ政府ハ數年間ニ瓦ル豫算外匯庫
ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲シ、次期ノ
議會ニ當該豫算ヲ提出スル用意ガアル
ト云フコトデアリマス、次ニ右ノ如キ
數年間ノ自給體制確立ヲ圖ル爲ニハ、
製鹽ニ關スル技術ノ可及的向上並ニ專
賣行政ノ運營ヲ徹底的ニ刷新スルノ要
ガアルト云フ點ナリマス、此ノ質疑
ニ對シマシテ、大藏大臣ハ全然同感デ
アルト云フ意ヲ表サレマシタ
昭和二十年法律第十八號中改正法律
案ハ、同法ノ一條ニ規定スル公債ノ發
行限度ヲ二億五百四十萬圓ダケ増額ス
ルト云フ改正ノ法律案デアリマス
貿易資金設置ニ關スル法律案ハ、聯
合國最高司令部ノ指示ニ基キマシテ、
政府ニ於テ物資ノ輸出、輸入ヲ行フコ
トニナリマス爲メ、爲替相場等モマダ
決定シテ居リマセヌガ此ノ現狀ニ鑑
ミマシテ、五千萬圓程度ノ資金ヲ設定
スルト云フ案デアリマス、本資金ノ運
用ニ伴フ歲入歲出ハ、之ヲ爲替交易調
整特別會計ノ所屬ト致スノデアリマ
ス、サウシテ本資金ハ右特別會計昭和
十九年度ノ決算上ノ餘剩金ヲ以テ之ニ
充當スルト云フコトデアリマス
國民財務組合法中改正法律案ハ、戰
時中ニ、御承知ノ通り、國民財務署ヲヤ
フテ參リマシタガ、戰後ト雖モ惡性
「インフレーション」ノ發生ヲ防止スル

ノ向上トハ、密接不可分ノ關係ニアリ
マス組合ガ各種ノ文化、政治上ノ事
業、運動ヲ附隨的ニナスコトハ何等差
支ヘナク、又強イテ之ヲ抑壓セントス
ルコトハ、其ノ當然ノ發生の性格ニ鑑
ミマシテ、適當ナラザルトノ所信ヲ示
サレタノデアリマス、以上總論的論議
ハ此ノ程度ニ止メマシテ、次ニ本法案
ノ内容ニ關スル審議ノ模様ヲ御報告申
上げマス

第一ニ本法ニ依リ労働組合ニ付キ同
盟罷業等ノ爭議行爲ガ合法化セラレタ
ガ、之ニ依リ爭議ハ激化シテ、公益ガ
著シク阻害セラレタル場合ノ處置如何
トノ質問ニ對シマシテハ、先ツ斯カル
コトノナイヤウニ、勞働委員會ノ機能
ヲ發揚スルト共ニ、更ニ目下別ニ勞働
爭議調停法ノ改正ヲ研究中デアル、恐
ラク次ニ議會ニハ之ヲ提案スルコトト
ナラウト思ヒマスガ、其ノ骨子ハ、
一、事前調停ノ制ヲ法制化スルコト、
二、強制調停ノ範圍ヲ擴大スルコト、
三、本法ニ依ル勞働委員會ヲ調停ノ法
的常設機關トスルコト、四、場合ニ依
リ右機關ノ調停ニ拘束力ヲ附與スルコ
ト、五、必要ニ應ジテ争議ノ中止命令
等ヲ發シ得ルモノトスルコト等が明カ
ニサレタ次第デアリマス

ノ答へガアツナノデアリマス、即チト、二、其ノ争議行爲ニ付テハ行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ中止運動ヲ禁止又ハ制限シ得ルコトノ此ノ三點デアリマス、而シテ今後ニ於ケル官吏、更員等ノ組合ノ結成及び其ノ活動ハ、從來ノ吏道觀ヲ變革スルノ要ナキヤトノ質問ガアツタノデアリマスガ、之ニ對シマシテハ、要スルニ今後ノ吏道觀ハ、官吏ハ國民ノ公儀デアルト云フコトヲ徹底スルニアリ、其ノ組合ノ活動モ斯カル吏道觀ノ下ニ自ラ限界ガアルデアラシ、又斯カル見地ヨリ現行ノ官吏服務紀律ヲ再検討シて居タルトノ言明ガアツタ次第デアリマス。

第四ニ、本法案第十五條ノ組合ヲ解散セシムルニ付テハ、特ニ慎重ナル手續ヲ要スルヲ以テ、特ニ屢々法令ニ違反スルコトヲ條件トシ、且ツ労働委員會ノ申出ニ依ツテ、裁判所ガ之ヲナスマノトシタモノデアルト答ヘラレタノデアリマス。

第五ニ、労働協約ニ付キマシテハ、種々ノ角度ヨリ論ぜラレタノデアリマスガ、其ノ主ナルモノハ、其ノ合理的基準ト云フ點ニ付テデアリマス、即チニスベキヤ、又「インフレーション」ノ進行途上ニ於テ、如何ナル金額ヲ捉へテ合理的基準トスベキヤトノ質問ガナサレタノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ハ、労働協約ハ先づ公定賃金制ノ承認

スル範圍内ニ於テノミ有效デアルノミナラズ、是ガ連結ニ付キ一方が過當ノ要求ヲナシ、適當ナル協定ガ困難デアル場合ニハ、他方ノ申出ニ依ツテ勞働委員會ガ其ノ調整ニ當リ、更ニ協約締結後ニ於テモ、ソレガ不適當ナル場合ハ第三十二條ノ規定ニ依ツテ是ガ是正ノ處置ガナサレルデアラウシ、又、イソフレーチョン問題ニ付キマシテハ、是ガ安定方策ノ極メテ困難ナコトガ種々陳述セレタノデアリマスガ、結局一面ニ於テ價格統制ハ強イテ之ヲナシコトハ却テ適當デナイ、可及的ニ之ヲ撤廃シテ自然ノ推移ニ依ツテ形成セラル、價格水準ヲ捉ヘテ、茲ニ安定スルガ如キ措置ヲ講ズルト共ニ、價格騰貴ノ主ナル原因タル主食料ノ配給ノ圓滑化ニ付キ凡ユル努力ヲナスベシトノ答ヘガナサレタノデアリマス。

最後ニ本法ニ規定セル勞働委員會ニ付キマシテハ、其ノ使命ノ重大性ニ鑑ミ、其ノ組織運營ニ付キ種々ノ質問ガアツタノデアリマスガ、ソレニ對シマシテハ政府ニ於テモ十分其ノ重要性ヲ認メ、委員、特ニ第三者代表ノ委嘱、委員會ノ事務職員ノ選任等ニ付テハ、凡ユル努力ヲ傾注シテ、實情ヲ通じタ中正ナル人物ヲ以て之ニ充テルヤウニシ、又ニ之勞働ニ關スル問題ヲ科學的ニ調査研究スベキ機關ヲ設ケルヤウ考究中デアル旨ノ答辯ガアツタノデアリマス。

以上極メテ要點ニ付キ、而モ概要ヲ述べタノデアリマスガ、右ノ質疑應答ヲ經テ後結局本法ハ政府提案ノ趣旨、即チ今後ニ於ケル民主的基盤ノ下、産業再建ノ爲ニハ健全ナル勞働組合ノ結合活動ヲ助成スルノ必要ガアリ、且又

此ノ事ハ「ボツダム」宣言ヲ忠實ニ履行
スル所以デアツテ、即チ本法案ハ右ノ
要請ニ適應スルモノトシテ、進歩黨
ヨリ米田君、無所属ヨリ水山君、自由黨
ヨリ本多君、社會黨ヨリ山崎君ガソ
レゾレ黨ヲ代表シテ贊成セラル、ト共
ニ、特ニ本法ノ所期スル成果ハ、主ト
シテ其ノ運用ニ懸ツテ居ルモノニアリ
マスカラ、政府ニ於テハ此ノ點ニ付キ
十分ニ注意ヲ拂ツテ、萬遺憾ナキヲ期
セラレタイト希望意見、其ノ他國內態
勢ノ民主化、並ニ國際勞働團體ニ參加
シ得ルヤウニ努力すべシ等ノ希望意見
ヲ開陳セラレ、之ニ對シテ厚生大臣
ハ、十分是等ノ希望ヲ満スベク努力ス
ル旨ノ答ヘガアツタノデアリマス、斯
クテ委員會ハ全會一致ヲ以テ之ヲ可決
シタ次第アリマス

想ヒマスノニ、我ガ國ニ於ケル勞働
組合法制定ノ問題ハ、既ニ大正八、九年
頃ニ遡リ、大正ノ末期、昭和ノ初期ニ
於テ、之ヲ繞ル朝野ノ論戰ハ華々シク
討議サレシタ、當時ニ於テ殆ド其ノ
論點ハ盡シテ居ルノデアリマス、而シ
テ特ニ昭和六年第五十九議會ニ於キ
シテハ衆議院ヲ通過シテ、貴族院ニ於
テ審議未了トナツタ經済ヲ考ヘテ見マ
ス、本法更ニ時代ノ脚光ヲ浴ビ
テ、新タル裝ヒヲ贊成シテ本院ニ再び
登場致シマシタコトハ、眞ニ今昔ノ感
ニ堪ヘナイ次第アリマス、何卒皆様
ノ御協賛ヲ御願ヒスル次第アリマス
(拍手)

○議長(島田俊雄君) 本案ノ第二讀會
ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ
央シマシタ

○松永東君 直チニ 本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ認ム
ス
○議長(島田俊雄君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
「異議ナント呼ブ者アリ」
○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シテ
勞動組合法案 第二讀會(確定議)
○議長(島田俊雄君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り可決確定致シタ(拍手)
○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出シマス、即チ此ノ際政府提出、農業國體法中改正法律案、水產業國體法中改正法律案、戰時森林資源造成法中改正法律案及び鹽業法改正法律案ノ四案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ其ノ審議ヲ進メラレントラ望ミマス
○議長(島田俊雄君) 横永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
「異議ナシト呼ブ者アリ」
○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマンタ、農業國體法中改正法律案、水產業國體法中改正法律案、戰時森林資源造成法中改正法律案、鹽業法改正法律案、右四案ヲ一括シテ第一讀會ノ續々開キマス、委員長ノ報告ヲ求メス——委員長川崎巳之太郎君

設置ノ問題ニ關シテハ、度々申上ゲマシタ如ク第三十八條ノ規定ヲ削除致シ趣旨ハ、支部ノ設置ヲ不必要トスルヤウナ考へ方デハ全クナク、寧ロ現狀ニ於テハ其ノ設置ヲ必要トスルヨリ、痛感致シテ居ルノデアリマスガ、唯現在ノ法律規定上ノ建前カラ申シマスド、支部ニ付テハ地區ノ制限ガアリ、更ニ又支部長ハ理事ナケレバナラムト云フ制限ガアリマスノデ、是等ノ法律上ノ制限ヲ撤廢シ、會則ノ定ムル所ニ依リ是等ノ制限ヲ廢シテ自由ニ支部ヲ設置サセルト云フ意味ニ外ナラナイノデアリマス「右ノ如キ趣意デアリマシテ、政府トシテハ支部ノ設置ヲ必要ト認メルコトヲ茲ニ重ネテ申上ゲテ置キタイト存ジマス」斯様ナ答聲デザイマシタ

ソレカラアート一ツ、農業團體法ノコトニ關シテハ委員會風景ヲ申上ゲマ

トニ、中央水產業會ト地方水產業會

程ニナツテ居リマスルカラ、是ハ中々

全國ニ關係ノ多イモノト思ヒマスノ

デ、此ノ法案ノ討議ニ付キマシテ問答

シタ一、二ノ點ヲ貴重ナル時間デア

ザイマスガ、此處デ述ベルヤウニ致シ

マス、水產ノコトニ堪能ナル、且又權

威アル方々若干名ガ此ノ委員會ニ加ハ

ツテ居ラレマシタノデ、極メテ專門的

ナ日又力ノ強イ希望條件ヲ當局ニ數項

ニ瓦ツテ述ペマシタニ付テ、政府ハ之

ニ同感ヲ表シ、若シハ篤ト更ニ研究

ラスルコトヲ約束致シマシタ

ソレカラ政府當局ノ意見トシマシ

トニ、委員ノ質問ニ對シテ南洋漁業ガ既

ニ瓦ツテ金額ト種類トヲ示シテ、且ツ

又其ノ成績等モ示シテ貰ヒタ云フ

コトヲ、委員側カラ當局ニ詰寄ツタノ

デゴザイマス、ソレカラ昨年農林省ガ

エライ笛太鼓デ手傳ヒタシ、宣傳セラ

レタ薄端廣幅ノ麥ノ獎勵ノ助成ノ後、

及ビ其ノ成績ハドウタト云フコトノ質

問ガアリマシテ、ソレニ對シテハ相應

ニ細カシイ書ギ物ヲ出シテノ答聲ガア

リマシタガ、數字ハ大部分倒ニナリマスカラ、此處ニハ省略サシテ戴キマス

是ニ農業團體法ニ關スル部面ノ説明、所謂委員會ノ光景「スケチ」ハ終

リマシタ、次ニ水產業團體法案ニ關シテノ討議ニ付テノ一、二ノコトヲ簡單

ニ申上ゲマス、改正ノ趣意ハ右農業團

體ト同シニ、第八條行政官廳ノ命令云

云ト云フコトヲ全部削除致シマシテ、

監督權又中央官廳ノ命令云フヤウ

ナモノヲ、エライ朝クシテシマウタノ

デゴザイマス、水產業團體ハ只今漁業

會ガ全國デ二千八百九十五アリ、其ノ

會員數ハ七十二萬五百八十一人アリ、

出資ノ總額ハ、漁業會ト地方水產業會

ト、中央水產業會ト合セテ、五千萬圓

程ニナツテ居リマスルカラ、是ハ中々

全國ニ關係ノ多イモノト思ヒマスノ

デ、此ノ法案ノ討議ニ付キマシテ問答

シタ一、二ノ點ヲ貴重ナル時間デア

ザイマスガ、此處デ述ベルヤウニ致シ

マス、水產ノコトニ堪能ナル、且又權

威アル方々若干名ガ此ノ委員會ニ加ハ

ツテ居ラレマシタノデ、極メテ專門的

ナ日又力ノ強イ希望條件ヲ當局ニ數項

ニ瓦ツテ述ペマシタニ付テ、政府ハ之

ニ同感ヲ表シ、若シハ篤ト更ニ研究

ラスルコトヲ約束致シマシタ

ソレカラ政府當局ノ意見トシマシ

トニ、委員ノ質問ニ對シテ南洋漁業ガ既

ニ止マリ、北洋漁業ガ既ニナクナリ、

テ、委員ノ質問ニ對シテ南洋漁業ガ既

○松永東君 此ノ際暫時休憩セラレン
コエラ望ミマス

○議長(島田俊雄君) 松永君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、暫時休憩致シマス

午後六時二十七分休憩

午後七時十六分開議

○議長(島田俊雄君) 休憩前ニ引續キ
會議ヲ開キマス

○中村梅吉君 残餘ノ日程ヲ延期シ、
明十五日定刻ヨリ本會議ヲ開クコトト
シ、本日ハ是ニテ散會セラレントラ
望ミマス

○議長(島田俊雄君) 中村君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、
議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、
本日ハ是ニテ散會致シマス

午後七時十七分散會